

風土記の丘の花だより²³⁴

今、そしてこれから見られる植物(2024年5月4日)

5月1日、万葉植物園で白い花が落ちているのを見つけました。エゴノキの花でした。見上げると、少しですが咲いていました。なんと去年と全く同じ日なので驚きました。これをご覧になる頃にはたくさんの花が咲いていることでしょう。



一昔前(もっとかな?)「金さん銀さん」というご高齢の双子の女性がテレビで有名になったことがありました。風土記の丘の「金さん銀さん」もそろって咲いています。左の黄色い花がキンラン、右の白い方がギンランです。どちらも里山の初夏の訪れを告げるきれいな花です。でも「野生ラン」ということで盗掘が絶えません。悲しいことです。こんなかわいい花をみんなで慈しもうとしないで、どうして独り占めするのでしょうか。読者の皆さんはそんな愚かしいことはしないと信じています。



万葉植物園のヒトリシズカの花は終わりましたが、同じ場所で続いてフタリシズカが咲いています。でも、このフタリシズカは栄養が足りないのか、「二人」ではなく「一人」です。ふつうは花茎が2本伸びて、まさに「二人静」なのです。もっと生育条件が整えば、二人静どころか、三人静になることもよくあります。もちろん、花茎が1本でも3本でも名前はフタリシズカです。それにしてもオシャレな名前ですね



小さな白い花が丸くかたまつたマルバウツギが咲き出しました。アジサイ科の植物です。かつてはユキノシタ科でしたが、この頃は本家のアジサイなどとともに、こんな分類になっています。葉は小さく丸みをおびているのでマルバと付いています。ウツギというのは「空木」のことで、枝の中が空洞になっていることを示しています。卵の花(うのはな)とも呼ばれるウツギもまさにそれで、枝は中空になっています。ウツギほどの見栄えはありませんが、マルバウツギの花も愛でてあげてくださいね。



トベラの白い花も咲き始めています。ほのかに香るので、たくさんの虫が集まってきます。葉が厚くしっかりしていることからわかるように、本来は海岸沿いに多い木ですが、柳川家の北側の通路沿いなどにたくさん植えられています。一説によると、トベラという名前は扉(とびら)が訛ったものと言われていています。枝は花と違って少し不快な臭いがするので、節分にこの枝を家の入り口の扉に飾ったからだそうです。

松下